

# 県大留学生新聞『パンダの足跡』の発行

## ・ 構成員

代表者	： 申明賢	( 国際文化学研究所 1年 )			
会計	： 王芹	( 国際文化学科 1年 )			
指導教員	： 張玉玲	( 国際文化学科 )			
メンバー	： 馬天馳	( 国際文化学科 交換留学生 )	王溥麟	( 国際文化学研究所 1年 )	
	張任	( 国際文化学研究所 1年 )	孫作文	( 国際文化学研究所 1年 )	
	石原さやか	( 国際文化学科 3年 )	姜宏偉	( 国際文化学研究所 交換留学生 )	

## ・ プロジェクトの目的

- ・ 日本に留学している中国人の私たちは、留学生の視点で見た日中両国の文化や魅力を、もっと多くの人に発信し、日中間の相互理解を促進できること。
- ・ 新聞を発行することで、留学先である山口県立大学を地域だけでなく、母国の中国にアピールすること。

## ・ 活動内容

留学生の私たちが、山口で暮らした「足跡」を残したいという思いに、中国を連想させる「パンダ」を組み合わせ、新聞に『パンダの足跡』というタイトルを付けました。

県大の中国人留学生が中心メンバーですが、国際文化学部中国語コースの日本人の学生にも協力してもらいました。

予定通り、新聞『パンダの足跡』を年二回発行しました。取材から配布までの作業の流れは次の通りです。



### 1. 取材と投稿

去年6月から、メンバーのみんなはそれぞれ日頃の留学生活で気づいたことや、関心を持っていることをトピックに、足を運んでインタビューしたり、資料を集めたりして、原稿の執筆に取り組みました。完成した原稿は、指導の先生にコメントをいただいたり、メンバーの間でお互いに意見を交換したりするなど、新聞の趣旨に合う内容に出来上がりました。

自分の体験、留学生の視点で感じた山口の魅力、日中文化の比較などの内容以外に、日本人学生の中国での体験、留学生へのインタビュー、現在の中国の流行語や若者の姿、県大の日中交流に関連する情報の紹介などの内容も加え、作成しました。第一号と第二号のそれぞれの新聞記事のテーマは次の表の通りです。



## 第一号

留学生が見た日本の小学校	現在中国の流行語とは？
日本留学の体験 一人の旅	青島研修の随想
中国の学生はとても真面目？！	日本の「蕾(つぼみ)」たち
留学生馬君へのインタビュー	中国文化の再発見
魅力的なやまぐち 楊貴妃に再会する	SL 山口号—出発
県大の日中友好交流に関連する情報	



## 第二号

私が見た日本の新ケイドロ	中国大学生の「寮」文化
日本と中国の「鬼」についての比較	中国における日本動漫
日本語と関連する現在中国語の流行語	韓流と私
元留学生郭さんへのインタビュー	私のホームステイ
白狐に出会って	列が好きな日本人
県大での中国と国際交流の関連情報	

## 2. 編集

夏休みに入ってから、編集作業を始めました。レイアウトなどを印刷会社に依頼した場合の印刷価格を調べてみたところ、10万円の予算ではとても間に合わず、自分達で編集することに急遽予定を変更しました。

はじめての試みでしたが、みんなで検討したり、試行錯誤を繰り返したりした結果、やっと新聞をお届けすることができました。



## 3. 印刷と配布

10月下旬から、印刷会社を決めて、交渉しました。11月中旬「パンダの足跡」の創刊号が印刷されました。完成後、順次配布しました。主に大学内（教職員、学生、食堂、生活支援グループ、図書館、国際化推進室など）、山口市内の公共施設、県内の高校に配布しました。具体的な配布先と部数は次の表の通りです。

学校内 (約 500 部)	県内高校 (約 300 部)
宮野、山口駅 (約 100 部)	宮野公民館 (約 50 部)
国際交流協会 (約 50 部)	県立、市立図書館 (100 部)
中国新聞 (30 部)	情報芸術センター (約 50 部)
さぼらんて (約 30 部)	Yucca (約 50 部)
山口県国際課 (約 20 部)	その他 (約 70 部)
余り	約 650 部 (今後配布する予定です)



#### 4. 報告と反省

去年 11 月末、創刊号が完成した際、みんなが集まり、反省会を行い第二号に向け準備し始めました。第二号も同じ流れで完成しました。

今年 1 月 18 日（火）に、「YPU ドリームアドベンチャープロジェクト 2010 成果報告会」で今回の活動について報告し、審査員の先生方からたくさんのご意見をいただきました。今までの活動を振り返ってみると、まだまだ不十分なところがたくさんありますが、今後において、今回の活動で積んできた経験を生かし、より円滑に活動を進めていきたいと思いました。



※ 今回の活動は中国新聞にも取材され、記事として「日中結ぼう、留学生新聞—県立大の団体創刊 体験や文化紹介」というタイトルで紹介されました。(2010 年 12 月 11 日の中国新聞・山口版)

※ 同じ記事は中国語に訳され、中国の中新網にも掲載されました。  
(<http://www.chinanews.com/lxsh/2010/12-11/2715731.shtml>)



#### ・成果及び感想

成果として三つが挙げられます。まずは、今回新聞を通して、私たちの視点で見た日中両国のことが多くの読者に伝わりました。中国文化に関心を寄せたり、日本文化を再発見できた方も増え、日中間の相互理解を促進したと思います。そして、留学先の県立大学を地域や中国にアピールすることもできました。県大での日中交流の関連情報の紹介で、今後の交流の場にもつながり、学校の地域貢献も推し進められたと思います。最後は、新聞が発行されるまでの一連の作業をしてきた中で、いろいろな問題にぶつかってしまいましたが、みんなで解決したことを通して、企画力、協調力、問題発見、解決の能力なども身につけ、一回り成長できました。

また、今回の活動において、学生生活支援センターの職員の方々に支えていただき、国際文化学部の諸先生方、そして日本人の友人からもたくさん助言をいただきました。心からお礼を申し上げます。

#### ・指導教員のコメント

留学先の日本についての理解を深めると共に、母国中国を客観的に見直すようになるのは、留学という特別な体験が与えてくれる恩恵ではないかと思います。今回の新聞作りを通して、留学生たちはこれまでの留學生活の成果を再確認した上で、多くの日本人に発信できた上、日本社会との様々なかかわり方も新たに身につけたのではないかと思います。今回の経験を生かし、今後も積極的に活動を続けてほしいと願っています。

#### ・収支報告

配分額		100,000 円
支出内訳	文房具代	4,828 円
	印刷代	74,000 円
	配布用郵送代	405 円
		円
		円
支出合計		79,233 円
残金		20,767 円